



日本のために、お客様のために、日本テクノができること。災害からの復興への歩みを紹介します。

東日本大震災の震源地に最も近い陸地である牡鹿半島。その突端に位置する宮城県石巻市船川浜は、東北三大霊場の一つである海を挟んだ対岸の島・金華山の参拝拠点となる町だ。半島で唯一の観光ホテルである島周の宿さか井(旧・ホテルニューさか井)は、金華山をはじめとする牡鹿半島の美しい島々を一望できる見晴しが自慢。震災とコロナ禍でダメージを受けた地域観光振興のため奮闘する。

牡鹿の島々とともに生き抜く



島周の宿さか井の代表取締役 遠藤秀喜さん。東日本大震災後も激変する状況に適宜対応していくことで事業を継続させている。

「あの日はいつも通り、関東圏からの団体旅行のツアー対応をしていました。代表取締役の遠藤秀喜さんは、被災時の写真を見ながら当時を振り返る。震災前は金華山を訪れる団体がメインの客層だった。2011年3月11日も普段のように金華山からフェリーで船川浜に戻り、港に隣接する自社の食事処で昼食を提供した。地震の発生はホテルに戻り休憩に入ったときだった。頑丈な鉄筋コンクリート造であったため、人的被害はなかったが、停電や通信の遮断で外部からの情報が途絶した。状況が把握できない中、半島と金華山の間海水が引いていくのを見た。海底が見えるほどの引き潮に、尋常ではない事態を察した。『船川浜を襲った津波は高さ約10m。港にある食事処は高さ約10m。津波は直接ホテルまでかかって来なかったものの、津波が去った後の被害状況が写された一葉を手に話す。津波は直接ホテルまで及ぶことはなかったものの、ホテルの立つ海抜80mの崖を半分ほどまでえぐった。今も引き出しの地肌が残っている。東北地方は周期的に大きな地震に見舞われてきた歴史がある。遠藤さんは単

移り変わる需要への対応で難局打開

身を走らせた。仙台中部までたどり着いたところや、と電話が通じ、宿泊客を関東へ送り届けるためのバスを台車チャーターできた。それまで音信不通だったことから、ツアー主催の旅行代理店も最悪の事態を想定していたが、84人は全員無事に自宅へ帰ることができた。周辺にあった同程度の規模の宿泊施設は、建物が修復不能なレベルの被害を受けたため廃業を余儀なくされた。遠藤さんも一時は廃業を考えたという。それでも女川原発復旧のための作業員の宿泊拠点として打診を受け、復興に貢献したいという思いから事業継続を決定。被災した地元住民に対する宿泊・入浴の援助と並行して建物や設備の最低限の補修を終え、地震発生から約7カ月後の10月15日に営業を再開した。以後は港や道路の復興工事業者にも宿泊拠点を提供。金華山の地盤沈下で観光が下火になった時期もなんとか乗り越えた。当時は目の前のことに夢中だったが、結果として、移り変わる状況に適宜対応することで難局を打開していった。復興工事の落ち着いた今では観光ホテルの稼働を取り戻しており、津波被害を受けた食事処の跡地に建った「ホテルタウンおさか井」に新しくレストランを出店するなど、地域振興にも一役買っている。近年のパワースポットブームの影響で、金華山を目指す若い客層は増えている。『2025年には金華山の12年に一度の大イベント『三年の大祭』があります。お土産やツアー内容など、すでに商品開発を始めたいです。』と意気込みを語った。遠藤さんは意欲を燃やす。牡鹿半島だけでなく、山勝・松島も巻き込んだ『島周ツアー』という企画も、観光の目玉として用意している。度重なる苦境にも立ち向かう東北の人々の力強さがそこにあった。

夏は雷や台風の被害に注意



こちら保安部

今回は夏によく発生する雷と台風に対する電気設備の備えを紹介しま

これは雷サージと呼ばれる高圧電圧が流れてくる雷や停電などを引き起こす。その事故で設備の改修や交換が必要になると停電は長時間に及ぶことになる。雷サージの流入防止には避雷器(LA)やLA内蔵P.A.S.などの設置が効果的です。また落雷は屋内のサージャケットやパソコンにも被害を及ぼします。電源ケーブルなどから雷サージが流れ込み、機器の損傷、焼損などが生じるためです。これを防ぐにはSPDといわれる瞬間的に過電圧を制限する過電流を流す機器などの導入が有効です。事業場に適切な機器を備え、被害を最小限にする対策を進めておきましょう。次に台風。周知の通り、強さ、大きさ、進路によって甚大な被害が生じます。高圧受変電設備ではキュービクルの扉が開いたり雨水が内部に浸入したりするなどで停電事故を招きます。強風により木が電線などに接触し、電気事故に至るケースもあります。台風被害が予想されたら事前によくキュービクルの扉の固定や通気口の目張り、電線や電気設備付近の樹木の枝切りなどの対策も検討してください。備えに対する日頃からの意識が大切です。

電気安全 台風のシーズンに備えて

台風被害が予想されたら事前によくキュービクルの扉の固定や通気口の目張り、電線や電気設備付近の樹木の枝切りなどの対策も検討してください。備えに対する日頃からの意識が大切です。

江戸の夏、涼に加えて温も利用

現代のキュービクルや冷蔵庫のなご江戸時代の夏、そこに暮らす庶民がどのように夏を乗り切っていたのかをのぞいてみる。



江戸の人々は自然の風と水を手軽に活用し暑さをしのいでいた。夏の強い日差しをすたれやよすなどで遮り、打ち水をするなどで涼しい風を吹き飛ばした。特に水は、野菜やういすを浮かべて冷やしたり、たらいに入れて冷やして水をさらせたりと、涼をとるのによく使われた。歌舞伎では本水といって舞台上で実際に雨を降らすなどの水を使用する演目がある。近年では屋外のレジヤード施設を中心にドライミストの設置が目立つ。打ち水の

あり、大勢の人でにぎわう芝居小屋の中で観客に涼しさを感じてもらったための演出の一つだった。夏の風物詩として初夏の頃になると冷や水売りが街中に現れる。清水に砂糖と白玉を加えて提供され、少しも冷たく感じられ、金製の器が多く使われた。だが、冷やすばかりではない。温かい甘酒も庶民に親しまれた。甘酒は夏の季節感になるほどこの時期の定番の飲み物だった。現代では冬のホットドリンクとして定着しているが、「飲む点滴」とも呼ばれる甘酒は栄養豊富で、暑さで弱った胃腸の回復や夏バテの防止に役立っていた。一方、現代人の夏バテは必要以上に体を冷やしてしまつて、因になっていて、過度に冷房を効かせたアイスクリュームなど冷たい物はかき食らうという行動は、自然からの涼だけに頼るのは難しいが、食事の見直しや体を冷やさない工夫で夏バテを予防すれば暑い季節も少しは快適に過ごせるかもしれない。白湯や甘酒といった温かい飲み物で内臓を温めることは江戸庶民だけでなく現代人にも有効だろう。

太平洋ごみベルト

大海を漂う巨大なプラスチックごみの固まり

これは海水浴シーズン本番を迎えるが、海岸に漂着するプラスチックごみはすでに5箇所問題視され、ボランティアの清掃活動も盛んだ。今回は海に流れ出したプラスチックごみで形成される「プラスチックベルト」について見てみる。海洋ごみについては以前から問題になってきたが、多くの人がその存在が明らかになったのは2001年、海洋学者のチャールズ・モア博士が航海中に波間に漂う大量のプラスチックごみを発見し、その存在を論文で発表してからのこと。太平洋ごみベルトは、海流や偏西風の影響で、特設海域に形成されやすい。現在最も大きい固まりとして知られているのはアメリカ大陸とハワイ諸島の間に形成されているものだ。太平洋ごみベルトは90%以上をプラスチックが占めており、総面積は約160万平方メートル、これは日本の面積(約38万平方メートル)の4倍以上である。付近を航行する船や鳥の誤飲が絶えず、中には海面を漂う漁網にからまり死んでしまう生き物も多いという。海洋学者や漁業関係者などが立ち上がり、ごみを回収する動きも出てきている。NGOオーシャン・クリーンアップを立ち上げ、海洋上のプラスチックごみを回収装置の開発に取り組み、オランダ人のボイヤン・スラットさんもその一人。試行錯誤を重ね、2019年には太平洋から9000キロのプラスチックごみを回収できた。現在は装置の



テックんの《環境用語の基礎知識》Q&A 第3回 「温室効果ガス」

Question 温室効果ガスとは? Answer 温室効果ガスとは、大気に含まれる気体(ガス)の中で、地球の表面から宇宙に出ていく熱をためこみ、逆にならぬようにする働きをいふ。よく知られているのは二酸化炭素(CO2)だが、一酸化窒素(N2O)やメタン(CH4)なども温室効果ガスとして知られている。 Question 温室効果ガスが増えるとどうなるの? Answer 大気中の温室効果ガスが増えれば、地球の表面温度が上がり、気候変動が加速する。海面上昇や異常気象の発生につながる。 Question 温室効果ガス削減にはどうすればいいの? Answer 省エネや再生エネルギーの活用、カーボンニュートラルの実現を目指す。

4つのメリット 24時間監視体制 緊急応動 高品質・低コスト 電気設備保証 サービス 安心・安全な事故対策は日本テクノにおまかせください! 電気使用安全月間ポスター

企業と電気をつなぐ 技術者をたずねて

日本テクノ協会・日電協 東京05グループ 芝崎健治さん

安全・安心が大前提



日本テクノ協会・日電協(以下、協会)は、東京05グループの芝崎健治さんは、電気関連の設備管理に携わる中保安全管理業務の資格を取得、その後実務経験を積み、2018年9月に協会に加入した。

「墨田区を中心に58件の保安管理を行って、うち約20件は、キュービクル内に忘れ物がない

困ったときに思い出してもらえよう こまめなコミュニケーションを日頃から

か、鍵はかけたかなど何度か確認して、現場を離れるようにしています。」

そんな芝崎さんを頼りにするのが、株式会社細谷ゴム工業の代表取締役である細谷克己さんだ。

「ゴム製品は加工しやすい原料に各種部品を添加します。これらに添加物が材料とよく混ざり合うには適した温度があり、製造時にはその管理が重要で、熱源のヒーターは電気で温度調整するので、安定した電力を使えることが製品の品質保持に欠かせません。芝崎さんはその重要な電気の使用環境を支えてくれる存在。単なる点検だけでなく、各種機器の稼働状況なども説明してもらっているので非常に頼りにしています。」

以前、トランスの入れ替えを行ったとき、一部に不具合があり加工機器の電源が入らなくなりました。その際も芝崎さんが駆けつけ、原因を突き止めた。それができたのも、芝崎さんが日頃からお客様と良好なコミュニケーションを心がけていたからだ。

「電気のごとで困った私の存在を、思い出していただくことが、お客様とコミュニケーションを心がけていくには、電気安全管理に努めます。」



細谷ゴム工業の細谷克己さん(右)と技術者の芝崎健治さん。

信頼を積み重ねていくことで 良好な関係を築き上げる

システム管理などを行っています。もう一つの協会の管理課は、経済産業省産業保安監督部への申請のサポートなどを行っています。2つの課が、関連業務のバックアップとフォローをしっかりと行っていることで、技術者さんの働く環境の整備に努めています。

経済産業省の産業保安監督部は全国に10カ所あります。地域ごとに法令の解釈が異なる部分があり、申請時には地域の実情に即した対応が必要です。



日本テクノ社員群像

協会保安本部は2003年4月に新設されました。

日本テクノと業務提携関係にある「日本テクノ協会・日電協(以下、協会)の電気主任技術者(以下、技術者)の数は1,000人を超えています。当本部は、広がり増す協会のネットワークに対応しながら、技術者さんが今後安全・安心な保安業務に専念できるように、専門的な組織の設置が必要であるとの判断のもと立ち上げました。

協会保安本部に属する協会管理課には、協会支援課と協力会管理課の2つの課があります。

協会支援課は、作業服、会員証などの備品手配や定期的に開催している技術セミナーの取りまとめ、設備変更に伴う契約の条件変更、電気点検簿の

協会保安本部 協会管理課 部長 内野清史



モットーは「期日を必ず守る」

重要な業務ですので、ミスをしたという申請方法をリストにまとめ社内情報共有しています。

最近、契約書の電子化に取り組みました。紙ベースの契約書では書類の送付が必要になり、かつ郵送などに日数がかかっていました。しかし電子化・ペーパーレス化することで、送付業務はなくなり、時間とコストが削減できました。

新しい取り組みを始める際は、なかなか上手くいかないこともあります。それが業務改善につながる、大きな一歩だと達成感が得られ、やりがいを感じます。これからは新たな挑戦は続けていきたいですね。

仕事をすすめるためのモットーは「期日を必ず守る」です。

私が当社に入社した1998年と比べると組織はかなり大きくなりました。しかし組織の大小にかかわらず、一人で完結する仕事はありません。自分が期日を守らなければ、周りの方々に迷惑をかけてしまいます。つまり、協会の技術者さんや、ひいてはお客様に迷惑をかけることとなります。日頃から、技術者さん、お客様とはウィンウィンの関係を築きたいと考えています。良好な関係づくりは容易ではありませんが、期日という約束を守っていくことで、信頼が生まれ、いつの日か大きな信頼へと変わっていくと考えています。

始まったばかりの協会管理課。期日を守ることも含め、技術者さんから頼られる部署に成長させていきます。



日本テクノグループの「設備改善」分野を担う日本テクノエンジニア株式会社は、各種工事など実績を重ねる中で、環境保全や持続可能な事業構築といった大域的な視野で必要な設備やサービスに関する情報を蓄積してきた。今回は、地球温暖化対策につながる高圧受変電設備の機器について取り上げる。

高圧受変電設備は、事業場で起こった不具合が原因で周辺に停電が広がらないよう波及事故防止装置を備えている。そうした防止装置の1つに地中線用ガス負荷開閉器UGS(Underground Gas Switch)がある。UGSは電圧による配電線路がない地域で電力会社との責任分界点に設置するのが一般的だ。地絡・短絡事故が発生した際、制御装置が動作し開閉器を開放させることで送電路を切り離し、送電線への波及事故を防止する。

UGSは波及事故防止の点では重要な装置だが、内部では使用している絶縁用のガスが近年問題になっている。というのも、二酸化炭素の温暖化係数を1とする

温室効果ガス不使用製品を推奨



日本テクノエンジニアが高圧キャビネット内に設置したUAS。技術革新が進み小型の製品が増えた。

空気絶縁型の普及へ

日本テクノグループの一員として電気に関する「設備改善」を担う。ユーザーが実施する電力分野の改善活動は「運用」「調達」「設備」の3つに大別されるが、そのうちの1つを柱を専門的にサポートする。

具体的には「受変電設備の改修」「省エネ機器の導入」「再生可能エネルギー設備の設置」などを提案し、お客様のより効率的な事業運営に役立てる。これによりグループ全体で、改善活動の3つの柱をワンストップで提供する体制が構築されている。

「現在は、ガスでなく空気で絶縁するUAS(Underground Air Switch)を推奨しています。事故が波及しないよう開閉器が電気を遮断するとき、接点が放電し火花がたどられるアーキが飛びます。SF6ガスはこのアーキを短時間で消滅できるため長年使用されてきたのです。しかし近年はUASの性能が向上してきたので、こちらを推奨しています。」

地球環境への負荷軽減に役立つ電気設備の普及をより一層進めたい日本テクノエンジニアは、今後も関連情報の収集やその提供に取り組みます。



東京都新宿区◎ファイブケイビル

テナントビル向けサービス ECO-TENANT

《ユーザーレポート》

東京・新宿駅西口。JRの複数路線が通る大ガードの複層ビル、ファイブケイビルは、牛丼チェーン店や居酒屋の入る4階建てのテナントビル。1999年に、この飲食店街一帯で起きた火

災のあとに建てられた。もともと業務のデジタル化に興味があったと話すのはビルを所有する会社の役員の一入である久田見さん。自身も複数の飲食店を経営する中で、POSシステムや勤怠管理などのクラウド利用、カネを溜め込んだり、ケータリングや店舗サポートなど積極的にデジタルツールを活用してきた。そのため、自然と流れてテナントビルの自動検針サービス導入も決めたという。

エコテナント導入以前は毎月人の手によって電気と水道のメーターを確認し、その検針数値をもとに各

自動化サービスの導入は自然な流れ スムーズな工事やテナントへの対応にも満足

「エコテナント」とは

一般的なテナントビルは、ビル全体で一括受電しているため、電気料金はビルオーナーが電力会社へまとめて支払っている。オーナーはテナントの使用分を立て替えるため、個々のテナントに対し、それぞれに応じた電気料金を請求する。そこには子メーターの検針、料金算出、請求管理といった手間のかかる業務が伴う。

「エコテナント」はオーナーをわざわざ呼んでいたそれらの業務をすべて代行するサービスである。既存の子メーターは自動検針のスマートメーターに変更され、月々の使用量は日本テクノに伝送される。オーナーとテナントの双方にとって、ともに信頼性を高められるシステムである。



久田見さん。

「数字の読み間違いや計算ミスがないかといった不安が伴った作業だった。しかし、デジタル機器は嘘をつきません。それにテナントさんも請求額が根拠を気にする方が増えました。そうした点で気持ちよく楽になりましたね。」

ただ、自動化することで楽になるのは当たり前のことでも話そう。

「自動検針サービスそのものよりも、システムの移行がスムーズだったことがよかった。導入に伴う工事、事前に綿密な打ち合わせ、事前にも確認し、同地区の発展に貢献したいと考えた。」

今後エコテナントや動画配信といったデジタルツールを効果的に活用しながら、ビルと地域の安全にも配慮し、同地区の発展に貢献したいと考えた。

テナントビルの電気料金に関するお悩みを解決!

ECO-TENANT

導入実績 **2,000棟** 突破

2022年5月1日時点 2,306棟

そろそろメーターを交換しないと... 毎月の検針業務がわずらわしい... 毎月の出納管理の手間がかかる...

検針・請求・支払いのお悩みを日本テクノが解決します!

子メーターをスマートメーター化 自動検針システムを導入

電気料金の請求・回収業務をまとめて代行

子メーターには有効期限があり、計量法に定められた期間しか使用できません。従来の機械式メーターからスマートメーターに交換し、自動検針化してメーターの有効期限管理も当社で行います。

テナント内へ入室の必要なし 読み間違いなし

オーナーさままたは管理会社 支払い 請求 日本テクノ 請求 回収

電力会社

テナントビル

* 取り付け時に短時間の入室をお願いする場合があります。

日本テクノエンジニアの空調提案

— 空気清浄機もお任せください! —

飲食店や医療・福祉施設など人の出入りが多い空間におすすめの据え置き型や、スペースを取らずに効率よく除菌できる天井埋込カセット形、既存の天井空調機に後付けのできるユニットタイプなど、さまざまな空間、用途に合わせてご提案可能です。

コスト抑制、品質確保、空調の消費電力30~80%削減可能!

空調設備のことならなんでもご相談ください

不安を解消1: メーカーを問わずご提案可能!

不安を解消2: お客様の環境に最適な空調システムをご提案!

不安を解消3: 補助金が活用できる場合があります。まずはご相談を!

不安を解消4: リース・クレジットご利用可能!

環境ソリューション部空調・LED 担当 佐藤 博幸(左) 向井 和文(右)

お客さまとお客さまをつなぐ日本テクノのGIFTシリーズ

お客さまのご支援に感謝!

GIFT street 5周年!!

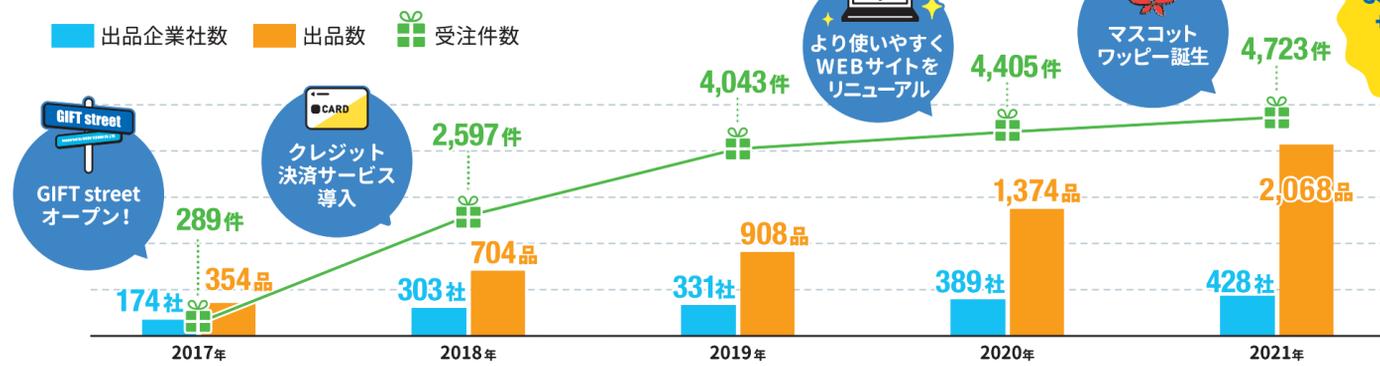


GIFT street はおかげさまで 2022年7月に5周年を迎えました!

運営を開始して以来、さまざまな特集企画やサイトのリニューアルなど
お客さまにとって便利で楽しめるサイトをめざし、充実を図ってきました。
すべてはお客さまの笑顔のために。

GIFT street はこれからもお客さまとお客さま、そして日本テクノをつなぐ「道」として貢献いたします!

GIFT streetの5年間のあゆみ



5周年記念特別企画や新コンテンツをご用意!

サイト内ではご利用の皆さま(注文者・出品企業)に向け、キャンペーンや新コンテンツなど、5周年を記念した企画がスタート!
さらにパワーアップしたGIFT streetで、ポイント交換をお楽しみください!

5周年企画 その1 5周年記念オリジナルグッズプレゼントキャンペーン

クレジット決済(税込500円以上)で商品をご購入いただいたご注文者さまに、GIFT streetオリジナルグッズをプレゼントいたします! たくさんのご注文お待ちしております。

2022年7月1日(金)受注分より 先着100件限定!

※グッズの種類は選びいただけません。
※対象商品の注文が100件に達した時点で告知なくキャンペーンを終了いたします。あらかじめご了承ください。

〈8面クロスワードパズルもCHECK!〉

5周年企画 その2 ワッピーのお部屋を公開!

掲載商品をワッピーがご紹介!
遊びに来てね!!

運営スタッフが実際に商品をお取り寄せして、体験レポートするコーナーなど、さまざまなコンテンツで出品企業さまの商品をご紹介します。

ワッピーについて

ワッピーの出身地や名前の由来など、ワッピーのことが一目でわかる!

トピックス

- 月特集...季節ごとのテーマに合った商品を掲載!
- 一級品マーケット...大注目のスタッフおすすめ商品を掲載!
- ワッピーのおまかせレストラン...掲載商品のレシピやアレンジメニューを掲載!

ワッピー旅行日記~ワッピログ~

食いしん坊でグルメなワッピーが旅先で出会った商品をご紹介します!



出品のお申し込みはこちら!



カンパニー申し込み受付

お問い合わせ 日本テクノ株式会社 Tel 03-5909-5128 Fax 03-5909-5534 Mail GiftStreet_support@gift-street.com
広報室 GIFT street 担当チーム 受付時間 9:30~17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

ギフトストリート <https://www.gift-street.com>



GIFTstreet サイト

お客さまとお客さまをつなぐ日本テクノのGIFTシリーズ

GIFT map

ビジネスマッチング

きっとある
M&Aが導く運命の出会い

ご相談・お問い合わせ

日本テクノ株式会社 営業本部 営業企画部
東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル51階

中小企業庁のM&A支援機関登録制度に登録しています

TEL 03-5909-7019

受付時間 9:30~17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

support@gift-map.jp

日本テクノ ギフトマップ <https://gift-map.jp>



6つの強み

- ★豊富なコンサルティング実績
- ★お客さまの従業員向け教育支援と多彩なノウハウ
- ★大手金融機関とは異なるパートナーシップ
- ★業界屈指の手数料設定
- ★全国62,000件以上の顧客基盤によるネットワーク
- ★地域に精通したスタッフ

※「SMARTMETER」は日本テクノ(株)の登録商標です。

お客様の声

日本テクノサービス導入事例

M&A ビジネスマッチング



GIFT map

ここでは日本テクノの提供する各種サービスの導入事例を紹介する(記事は取材当時の内容)。主力商品である「SMART CLOCK(スマートクロック)」と「SMARTMETER ERIA(スマートメーターエリア、以下:ERIA)」に加え、お客様同士のM&Aなどを仲介する「GIFT map」の3つの商品・サービスだ。これらは省エネ活動による環境対策や事業承継による産業基盤づくりなどSDGsの目標にもつながっている。



電気の見える化



日本テクノのビジネスマッチングサービス「GIFT map」による資本業務提携が成立し、2022年4月、調印式が行われた。同じ業界に属する2社が連合を組み、課題の解消と事業戦略の拡充に力を注いでいく。

M&A ビジネスマッチング

福島県鋼材卸会社の資本業務提携

東北エリア



調印式を終えて握手を交わす市川さん(左)と高橋さん。

同じ業界の同志として手を取り合う 一歩踏み込んだ相互関係の構築

1979年設立の高橋鋼材株式会社は福島市を中心に鋼材一次製品の卸売を行っている。代表取締役の高橋智弘さんは父から事業を引き継いだが、後継者もおり、大きく変化する社会情勢の中で今後のような経営を始めていけばよいか漠然と考へ始めていた。そんなときにまたま訪問したM&Aアドバイザーに事業承継について相談。アドバイザーの説明にもM&Aにはさまざまな手法があるという。事業の存続と発展に向けてあらゆる可能性を探ろうと2021年7月に仲介契約を締結した。

提携までの経緯

2021年7月	高橋鋼材 株式会社 が 仲介サービス登録
2022年1月	東亜通商 株式会社 が 仲介サービス登録
2月	トップ面談
3月	提携スキームの調整
4月	資本業務提携契約 調印式

2022年4月、資本業務提携契約の調印式が執り行われた。今回の契約で東亜通商は高橋鋼材の発行済み株式の30%を取得し、主要株主となった。資本業務提携契約を締結することによって、事業のすべてを譲り渡すのではなく、独立性を維持したまま資本面・事業面で支援を受けられるようになる。

譲渡側

高橋鋼材 株式会社

代表者●高橋智弘(55歳) / 事業内容●鉄鋼一次製品の卸売業 / 所在地●福島県福島市 / 設立●1979年 / 従業員数●5名

譲受側

東亜通商 株式会社

代表者●市川恵郎(67歳) / 事業内容●鉄材の加工および販売業 / 所在地●福島県郡山市 / 設立●1986年 / 従業員数●56名



まずは電力ピークを改善し、次の省エネステップへ

学校法人 太陽学院 認定こども園 第二太陽の子幼稚園

電気の見える化

調理時の電力に対応

導入前後の比較

契約電力	▲16.6%
使用電力量	▲0.6%

2019年11月~2021年10月

園長の若松優美さん。

理スタッフは外部からの派遣なので作業時間は短くはない。若松さんは自分たちでできることを探した。園児は7時頃から登園しますが、温水床暖房を使用しているため、早朝は寒いので、空調を併用してしまっている。しかし8時30分には、部屋も暖まってきた。そこでERIAが警報の表示になったら空調を止めるようにしました。園舎は自然光を多く取り入れるつもりで十分明るいので照明も減らす限り減らします。これで8時30分の改善ができました。

その後、調理部門は内製化し、食卓のタイミングに近い調理時間になるようシフトを組んだ。これですべての調理が完了した。電気を見える化した効果はほかにもある。職員一人ひとりが空調や照明の切り忘れがないよう心がけ、こまめに対応できるようになった。働き方改革の環境で残業時間の削減を進め

活動の習慣づけ

電気の見える化

設定値の70%を超えるとSMART CLOCKが音声で案内

昭和ネームプレート 株式会社

導入前後の比較

契約電力	▲22.0%
使用電力量	▲9.4%

2013年1~12月 vs 2021年1~12月

埼玉県越谷市に工場を構える昭和ネームプレート株式会社。創業から半世紀以上の歴史を持ち、アルミや樹脂のプレートをほじり、シルク、オフセット、シールなど多様な印刷に対応する。2008年にエコアクション21を取得するなど、環境面に配慮した事業を運営してきた。その中で電気の使い方も見直しが必要と考え、日本テクノの電気の「見える化」を導入した。

「成果を出すには取り組みを日々の習慣にすることが大切だ。そこでデマンド監視サービスにアクセスし出力した前日の使用量グラフを、毎日掲示するようになっています。製造部門だけだけでなく、営業、業務、品質保証部門の掲示板にピーク値とそれが出た時間、使用量を書き添えて注意喚起を図っています。製造部長の井口忠久さんは話す。

同社の取引先は工業分野のおよび医療関係が多く、エコアクション21の受注件数が急増した。そこで抜本的な対策として約800万円をかけた設備を大幅に入れ替えることにした。最新のシルク印刷機を導入し、さらにポックシ型乾燥機とトランス機を新調し、設置後10年以上を経過した空調20台を2~3年以内に入れ替えたい。その投資効果は大きく、売上を伸ばしながら契約電力・使用電力量ともに引き下げが図れた。

「受注件数は現在も増加傾向にあり、業務時間も伸びていくので、以前よりも電気を効率的に済んでいきます。売上増(コストカット)効果により、投資は約6年で元が取れると考えて

電気の見える化

毎夏の意識喚起



空調の運用は厳密なルールに従って効率化

電気の見える化

温度上昇の避けられない場所も空調使用の効率化

サン電子工業 株式会社

導入前後の比較

契約電力	▲5.8%
使用電力量	▲0.4%

2018年2021年

主にアルミ電解コンデンサの設計・製造・販売を行っているサン電子工業株式会社(本社:大阪府四條畷市)。2012年、東日本大震災の節電要請に際して、監視装置を設置しデマンド対策に取り組んでいた。2010年のピーク時に190kWだったのが、対策によって120kWまで低減できた。

「ですが、電気の効率的な使用にはデマンドだけでは不足で、使用電力量の削減も必要ではないかと、設計課係長の佐伯直哉さんは考えた。そのとき日本テクノの電気の「見える化」を知り、2018年11月にERIA

使用電力量の改善

電気の見える化

温度上昇の避けられない場所も空調使用の効率化

サン電子工業 株式会社

導入前後の比較

契約電力	▲5.8%
使用電力量	▲0.4%

2018年2021年

とSMART CLOCKを導入した。その省エネ活動を始める。導入に当たって、日本テクノの勉強会が開かれた。各班から1人、本社の4分の1の社員が参加した。内容は電気料金仕組みに始まり、ERIAとSMART CLOCKの機能説明など。以前、デマンド監視装置を使っていたにもかかわらず、内容の理解は比較的スムーズだった。警報発生の時の対応も、誰がいつまで何をやるか詳細が決まっていた。あとは使用電力量をいかに削減していかただけだ。

その課題の1つとして浮かんだのが環境試験室だった。コンデンサの耐久試験をする場所。自動車のエンジンルームの高温を40~50時間持続させるという環境を創り出す。試験室は1階にあつて、2階は特に夏場の温度上昇が激

